

名古屋テレビ塔 大澤 和宏社長インタビュー

名古屋発展に寄与した後藤新平をたたえる 「後藤新平の風」設立の経緯を聞いた



明治から昭和にかけて政官界で活躍した後藤新平（1857～1929）は名古屋大学の前身・愛知医学校の医師（後に同学校長兼病院長）として1876～82年まで名古屋で過ごした。そのことをはじめとして、その後も名古屋のめざましい発展に寄与した後藤の事績を顕彰しようと令和5年（2023）7月に「後藤新平の風」の発起人会が開催され、同年10月には、一般社団法人「後藤新平の風」（代表 大澤和宏・名古屋テレビ塔株式会社社長）が設立された。

後藤は幕末に、現・岩手県奥州市の武家に生まれ、私塾に学んだあと、明治7年（1874）、同県立医学校に入学。同9年（1876）、愛知県病院に医師として赴任。途中、大阪出向もあったが、明治14年（1881）、愛知医学校長兼病院長となり、同16年（1883）まで6年間名古屋で活躍。

その後、内務省衛生局長となり明治31年（1898）、台湾総督府民生局長に就き同39年（1906）、満鉄総裁、大正9（1920）年、東京市長を歴任。同12年（1923）、関東大震災直後からは内務大臣兼帝都復興院総

裁に。その間、拓殖大学学長、少年団（後のボーイスカウト）総裁などを務め、その後も東京放送局（後のNHK）初代総裁に就くなど華々しい活躍ぶり。

台湾時代は住民教育とインフラ整備に努め、ダム建設と灌漑水路で穀倉地帯に変えたり、満鉄時代は鉄道整備や調査部づくり。東京時代は市政調査会と都市計画。関東大震災後は環状道路網計画などを短期間に策定したものの一部を除き未完成に終わったが、現在までにつながる先見性は高く評価されている。

また板垣退助が岐阜で暴漢に襲われた際、名

古屋から駆け付け治療したり、伊藤博文に外交戦略を語り、伊藤はその足でロシアと交渉しようとしてハルピンで暗殺されるなど、歴史的なエピソードも多い。

名古屋での顕彰の始まりは平成19（2007）年、愛知医学校発祥の地（名古屋市中区・堀川沿い）に名古屋大学医学部外科系のNPOが記念碑を設立して。その後、同27年（2015）明治の文人が集まった料亭のあった中区・納屋橋から愛知医学校跡、後藤が学んだ塾のあった大須の大光院、外国人外科医が日本初の植皮手術を行った大須・西別院をめぐる歴史ウォーキング「衛生のみち」をつくり。その後、コロナ禍に見舞われたが、令和元年（2019）には大須演芸場で「後藤新平祭」を開催するなどイベントは継続し機運を盛り上げてきた。

そして令和5年（2023）10月、財界、文化人ら58人が加入の一般社団法人「後藤新平の風」が設立された。主な事業は①中部電力ミライタワー（名古屋テレビ塔）下にモニュメントを設置する②NHKの大河ドラマ化を推進する③後藤新平の風青春賞（仮称）の創設—など。

大河ドラマ化については既に活動している出身地・奥州市の「後藤新平顕彰会」や東京の「後藤新平の会」など3団体と共同で昨年11月、NHKに「大河ドラマ採用のお願い」を提出している。

またモニュメントや新平賞（仮称）については名古屋を中心に企業・団体など広く働き掛けを行い、具体化に向けて進めている。

大澤代表は「名古屋大学の創基となった愛知医学校の校長だったり、帝都復興の礎を築いた後藤と働いたり薫陶を受けた人は北里柴三郎（1853～1931）や新渡戸稲造（1862

～1933）、杉原千畝（1900～1986）など数多いが、戦後の名古屋復興に力を発揮した100メートル道路の田淵寿郎（1890～1974）や石川栄耀（1893～1955）もその影響を大きく受けた。その礎は名古屋時代に培われており、後藤の生涯の活躍が名古屋の発展にも大きく貢献したことを顕彰し、名古屋の魅力として、観光資源にもつなげたい」と力を込めている。

